

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



歌舞伎衣裳刺繍

林 秀 雄

(昭和61年度作品)

16^m映画・ビデオ
カラー・16分

プロフィール

住所、荒川区西尾久8-50-15

昭和59年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

「このネ、下から針を出すのにいつまでもねらっているようじゃ商売にならないんだ。ここへ出そうというところへ、一度で針が決まるようじゃなくちゃ。」と語る林さんは、大正5年(1916)生まれの71歳。浅草歌舞伎の舞台衣裳の刺繍部門を担当していた徳次郎さんの長男として生まれました。

昭和5年(1930)、三越本店刺繍部門の仕事に携わっていた島光貞一さんに入門。7年間地物刺繍の修業をし、その後、父徳次郎さんのもとで歌舞伎衣裳刺繍の技術の指導を受けました。

子供の頃から歌舞伎衣裳に囲まれて育ってきたという林さんは「刺繍技術だけではダメなんだ。歌舞伎そのものを知らないとな。」と語りながら、今日もきらびやかな衣裳や糸に囲まれて、針を進めています。

現在、荒川区伝統工芸技術保存会の副会長。

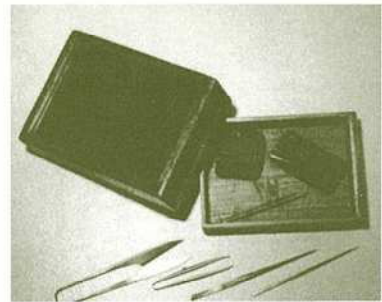
企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

用具・工具

糸巻、鉸はば、針（天細・間細・間中・間太・大衣裳・中衣裳・小衣裳・特殊針など用途別多種）、目打ち、型紙、胡粉、筆、張台、白粉、駒（糸を巻いておくもの）、管くわ（紙製の糸を巻いておくもの）、糸（正絹・金糸・銀糸を基本に色・太さを選択、撚り糸などは自分でつくる）、糸撚り機。

工程—舞台衣裳「藤娘」の場合—

- (1)原図どり、下絵書き（絵羽ぬいをして、絵をつける）。
- (2)台かがり。
 - 刺繍をする生地を張台に張り、巾木で張具合を調整する。
 - かがり糸でわくに取りつける。
- (3)水おしろいで、模様をかく。
- (4)刺繍（技法）
 - 葉っぱの部分「縫い切り」で縫う——「縫い切り」は、縦横斜めに糸を平らに並べて、すきまなく平行状に模様を縫い現す技法。
 - 糸止め。
 - 目打ちで、糸の起伏をならし平らにおちつかせる。
 - 葉っぱに「ボカシ」をほどこす。
 - 重ねた糸をめぐりに通す。
遠くからでも立体的に見えるように、何本も重ねた糸を使用。
 - 太い糸の「縫い切り」。
 - 「角押さえ」——糸を動かないようにするための技法。
 - 「疋田縫い」——鹿の子絞り風の模様を出す技法。
 - 金糸の「菅縫い」。
折り返しの針の使い方が難しく、金糸がたるまないように曲げ針を使う。
引込み糸を作り、端の金糸を引き抜く。
 - 「縁取り縫い」——仕上げの段階で使われる技法。
まん中の軸シベを金糸で作る。
金糸を2本使った縁取り縫い。
糸撚り機を使い撚り糸を作る。撚りが戻るのを防ぐため、水をつける。
片撚りしたものを縁取り縫いする。
 - ※この他の刺繍の技法
 - (ア)「平うめ縫い」——糸をすきまなく平行に並べてさす刺繍。
 - (イ)「ちゃら縫い」——渦巻状に空間を作る。
 - (ウ)「相良縫い」——糸の輪に針を通して玉を作る。
 - (エ)「刺し縫い」——色の濃淡、影の明暗をあらわすのに、針目に長短をつけ模様全体を刺し埋める。



（各種の技法で縫いあげた梅）



（完成した藤娘の衣裳）

利用される方は…………… ☎ 3891-4349

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。
貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。